

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真 1）（表 1）などと文中に記載し、右ページに（写真 1）（表 1）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

部門名：カリキュラム・マネジメント実践部門

エントリー名：八女市立黒木中学校 石橋由圭
平成30年度第4回中堅教員研修

活動名：カリマネ推進の取組～重点目標の具現化を目指す教務運営～

解決すべき課題：【重点目標】

- 自分の考えを持ち、表現できる（読む・説明する）生徒の育成
- 時間・掲示板を見て主体的に行動ができる生徒の育成

目標・方針：

- 1 教育課程の量的管理
 - (1) 教務による自習を出さない時間割調整 (2) 職員への1ヶ月先までの時間割提示
- 2 教育課程の質的管理
 - (1) 週案による授業の自己管理と校長、教頭、教務による確認。
 - (2) 定期考査における知識・技能の活用を図る問題の出題。
- 3 授業の改善について
 - (1) 「できる」「わかる」喜びを実感できる授業づくり（資料1, 2）
 - (2) 少人数授業（数学・英語・技術・家庭）TT 授業（国語・数学・理科）の実施（資料3）
- 4 分掌部会の活性化
 - (1) 週時程に位置づけた運営委員会と4つの委員会(研究推進、人権・同和教育推進、生徒指導、特別支援)による学校経営への参画（資料4）
- 5 その他の取組について
 - (1) 月ごとの職員アンケートの実施（資料5） (2) 言語活動を充実させる取組（資料6）

活動内容「3 授業の改善について」

今年度から研究主題を『「できる」「わかる」喜びを実感できる授業づくり』とした。これまでの、研究資料等から「できた」「わかった」状態を整理して、そこから研究授業で実施するやり方では職員の主体的な授業改善にはつながらないと考え、生徒の「できた」「わかった」と感じる場面と、教師の「できた」「わかった」と実感できたときの授業での工夫点をそれぞれ振り返りアンケートとして事前にとった。自分たちの感覚で「できた」「わかった」を整理したいという研究主任の意志を尊重した結果である。この膨大なアンケート結果を分析するために「さいたま市の実践である『良い授業の4つの因子』（資料1）で分類するよう」、研究主任に助言し、その分類に応じて研修（資料2）を行った。この研修会をしたことで、これまでやってきたことのよさを再確認できたとともに、話し合いや表現する活動を工夫していくことの必要性を職員自らが言い出したことに大きな意義があった。今後も、研究主任に自信をつけさせながら、分類したものを整理し、地に足のついた授業改善に取り組んでいきたい。

資料1

「よい授業」の因子
子どもたちが望み、学力を付ける「よい授業」の4つの因子

授業マネジメント
(授業規律にかかわる項目など)

基礎アップ
(基礎基本定着指導)

授業スキル
(授業の際に教師が行う様々な工夫)

アクティブラーニング
(生徒の主体的・能動的・協働的な学習活動)

資料2

教師アンケートと生徒アンケートを基に「できる」「わかる」を考察

「授業マネジメント」「基礎アップ」「授業スキル」「AL」の視点で整理してみよう。

※事務局記入欄

No. A-70

【様式2】

授業改善の2つめとして、少人数による授業やTTによる授業を取り入れた。**（資料3）**前期は1年生の数学と英語、1クラス36名を2つに分け、18名ずつで授業を行った。後期は、習熟度別に再編成して実施した。学力低位層の子どもを中心とした10名ほどのクラスを編成し、4～5名の教師で担当を決め習熟度に応じた支援をした。技術・家庭科も教師の要望で2クラスにわけている。理科は全授業をTTで、国語は読む力が特に厳しい3年生をTT、数学は、支援の必要な生徒を中心にTTを組んだ。この様なきめ細やかな支援が成績の向上につながってきた。特別支援学級には、支援員も含めると、12名ほどの教員が授業に関わっている。TT授業を組むことで、持ち時間数の格差を少なくし、相互に授業を見合うことで質の向上にもつながっている。

1 教育課程の編成・実施・評価

少人数授業(数学・英語・技術・家庭) TT授業(国語・数学・理科)の実施

時	1～1時	2～1時	3～1時	4～1時	5～1時	6～1時	7～1時	8～1時	9～1時	10～1時	11～1時	12～1時
1年	金1	金2	金3	金4	金5	金6	金7	金8	金9	金10	金11	金12
2年	金1	金2	金3	金4	金5	金6	金7	金8	金9	金10	金11	金12
3年	金1	金2	金3	金4	金5	金6	金7	金8	金9	金10	金11	金12
4年	金1	金2	金3	金4	金5	金6	金7	金8	金9	金10	金11	金12
5年	金1	金2	金3	金4	金5	金6	金7	金8	金9	金10	金11	金12
6年	金1	金2	金3	金4	金5	金6	金7	金8	金9	金10	金11	金12

資料3

「4 分掌部会の活性化」
人権・同和教育推進委員会は、SCを小学校へ派遣するために午後に変更し、SCが午前中に小学校へ行った情報を午後の委員会で共通理解するようにした。SCが要理解生徒情報シート**（資料4）**に記録を残していくことで、SCによる一貫した見立てで、小学校から9年間通した児童生徒理解を推進している。

資料4

要理解生徒情報シート

日付	困ったこと	起こったできごと	見えて	当該の対応等
○	Aの母親はAのこだわりが強く、一歩思ひ込めたらなかなか考えを	授業中AがBに「消しゴム貸して」といって消しゴムを取ったら「勝手に取った」と激高し返ける	【担任】SC【SSW】他、【SC】学校の様子は、随時生	○ 連絡が出たときは別室に連れ
○	覚えられないこと、思い通りにならな	を数回に渡りかけた。	前ではやや抑制がきく。 【通信指導数値】...	○ 連絡の回数減らし、少しづつ

「5 その他の取組について」
毎月、その月の行事や公務分掌を振り返ってのアンケート**（資料5）**を職員にとっている。反省点を次年度に向けての計画に反映させることで、年度が変わり担当が変わっても、反省が生かされるようにしている。

また本校の長年の課題である表現力の育成をめざし、意見文発表**（資料6）**を行ってきた。しかし、語彙の乏しさや、読む力、表現する力にいっそう重点化するため、今年からコラム学習を取り入れ、週に1枚ずつコラムの書き写し、感想や意見を書くという学習をはじめた。新聞を読むことで、全体の概要を速読し、早く的確に要旨を読み取る読解力、表現力を身につけることを目的にしている。今後は、ノー部活デーを利用してコラム学習の充実を図りたいと思っている。

資料5

夏休み学習会

授業時間外 授業時間

7月全月として 10月全月まで 11月全月まで

資料6

授業時間外 授業時間

活動の成果：
○ 「できる」「わかる」喜びを実感できる授業研究により、教師の授業改善への意識化が図られている。
○ 支援が必要な子どもの実態把握により、有効な手だての共通理解と共通実践を行うことができています。

アピールポイント（アイディアや工夫）：
○ 子どもの声を生かした授業の改善 ○ PDCA 職員アンケート ○ 「読む力」をつけるコラム学習